開会（8：57）

○村松幸昌委員長 定刻より若干早いですけれども、皆さんおそろいですので、ただいまから総務文教常任委員会を開会いたします。

それでは、議案の審査を行います。

本委員会に付託されました案件は全部で7件であります。

審査順序は、お手元に配付の審査順表のとおり、総務部、行政経営部、防災部、市立総合病院の順で審査したいと思いますのですが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○村松幸昌委員長 御異議なしと認めます。よって、お手元の審査順表のとおり審査することにいたします。

初めに、総務部所管の議案の審査を行います。

まず、議第3号「令和6年度焼津市土地取得会計事業特別会計予算案」について議題といたします。

予算書の18、19ページ、事項別明細書は211ページからです。

それでは、議第3号に対する質疑に入ります。

質疑、意見のある委員は御発言をお願いいたします。

○鈴木浩己委員 土地取得事業だよな。土地取得事業ですね。

○村松幸昌委員長 そうですね。

○鈴木浩己委員 214ページの歳入のほうですけれども、土地売払収入のところ、道路改良事業の買戻し分ということで部長の説明を受けましたが、具体的には何という路線のどの辺の部分で、面積的にはどれぐらいでしょうか。お願いします。

○鈴木和幸公有財産課長 路線名は、市道保福島大島新田線道路改良事業、事業名、この道路改良事業というようなところになってございます。

中新田地内の、いわゆる農免道路と呼ばれている保福島大島新田線の道路改良事業でして、場所的には、マルハンのパチンコ屋さんの少し南側になりますけれども、その一部の土地を先行取得する必要があるということで、先行取得ということで、件数的には3件の土地になりまして、所有者としては、お二人の方に対する土地の買い付けということにもなっております。費用等につきましては、事業実施の所管課が買収費用等を算出しまして、買取りのみこちらで行っているということになってございます。

面積につきましては、3か所ございまして、1つ目が72.59……。

○村松幸昌委員長 課長、ちょっと待って。3か所じゃなくて、3筆。

○鈴木和幸公有財産課長 筆でいいますと、中新田の1524番の1の一部というような言い方になりますけれども、その部分で72.59平米、もう一つが、1524番の3の一部というようなところで70.52平米、もう一つが、1529番の一部ということで117.13平米ということで、買取り価格がそれぞれ、1番が350万6,097円、2番が340万6,116円、3番が395万8,994円、合計で1,087万1,207円という金額になってございます。

以上でございます。

○鈴木浩己委員 ありがとうございます。

保福島大島新田線の北側から南の方向を見たときに、マルハンのところの交差点、ありますよね。交差点よりも南側のちょっとカーブしているあの部分だと思うんですけども、その部分のどっちにありますか、東側ですか、西側ですか。

○鈴木和幸公有財産課長 南進するような向きで行きまして右側になりますので、西側の土地になりますね。

○鈴木浩己委員 承知しました。了解です。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。いいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。

それでは、これより採決いたします。

議第3号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手総員であります。よって、議第3号は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

それでは、引き続き、次に、議第22号「焼津市会計年度任用職員の給与等に関する条例及び焼津市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。

議案書は13ページ、参考資料は1ページからです。

それでは、議第22号に対する質疑に入ります。

質疑、意見のある委員は御発言願います。

○杉田源太郎副委員長 これは自分も質疑した経緯があるんですけど、前回のときに、まだできないよということで答弁をいただいたんですけど、あのときもう既に、これに関する会計年度任用職員に対する給与みたいな、そういうものについてやっている自治体というのはほかにあったと思うんですけど、それは、そのときに間に合わなかったという理由というのは何ですか。

○久保山晋一人事課長 今回の勤勉手当につきましては、令和6年4月以降の施行でありますので、勤勉手当を先行して支給しているという自治体はないというふうに認識しております。

以上です。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

○鈴木浩己委員 ちなみにいいですけど、この勤勉手当を支給することによって、令和6年4月1日からの施行ということで、金額にしてどれぐらい影響が出るものか、もし積算していたらお願いしたいと思いますけど。

○久保山晋一人事課長 市役所全体での額ですけども、昨日、ちょっとすみません、間違えて答弁してしまったところですけども、市役所全体で1億7,516万4,000円ということで試算しまして、予算措置をさせていただいているところでございます。

以上です。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。よろしいですかね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議第22号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手総員です。よって、議第22号は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、総務部所管の議案の審査は終わりました。

当局の皆さん、御苦労さまでした。

ここで当局の入替えのため、暫時休憩いたします。

休憩(9:07~9:14)

○村松幸昌委員長 それでは、休憩前に引き続き総務文教常任委員会を開催いたします。

次に、行政経営部所管の議案の審査を行います。

まず、議第23号「焼津市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といたします。

議案書は14ページ、参考資料は3ページからです。

それでは、議第23号に対する質疑に入ります。

質疑、意見のある委員は御発言をお願いいたします。ありますか。いいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 それでは、特にないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

討論に入ります。討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議第23号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手総員であります。よって、議第23号は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議第32号「志太広域事務組合規約の変更について」を議題といたします。

議案書は24ページ、参考資料は20ページです。

それでは、議第32号に対する質疑に入ります。

質疑、意見のある委員は御発言をお願いいたします。どうですか。

○鈴木浩己委員 今まで志広組の施設の更新のときに、それぞれやっぱり同じような改正をされたと思うんですけども、例えば大井川環境管理センターの部分もそうだと思う

んですけれども、今回改正されるものというのは、どこの施設も同じような計算という
か、算定のやり方でこういうふうに変更されるものかどうなのか、伺っておきたいと思
います。

○海野真彦行政経営部次長 別表、第14条の別表の中にございますけれども、ごみ処理施
設であったり、し尿処理施設だったり、斎場だったり、それぞれで2市の負担区分が変
わってございます。

また、今回は、建設とか運営のほうはごみ処理施設規定があったんですけれども、そ
のごみ処理施設の解体については規定がなかったものですから、改めて、新たに規定を
つくったと、そういった状況でございます。

○鈴木浩己委員 承知しました。

別表というのを僕らは持っていないものですから。

(「いや、この参考資料集20ページに」と呼ぶ者あり)

○鈴木浩己委員 参考資料の20ページ、20ページですか。すみません。初歩的なミスをし
ました。申し訳ありません。ありがとうございました。

○村松幸昌委員長 ちょっと私、いいですか。いいですか。

○杉田源太郎副委員長 はい。

○村松幸昌委員長 そのポジションにかつていたことがあるというだけですけど。このご
み処理施設というのは、一色、高柳、それと岡部のリサイクル、これを含めてごみ処理
施設ということでもいいです。

○海野真彦行政経営部次長 はい。

○村松幸昌委員長 分かりました。

戻ります。

ほかにありますか。いいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 ほかに意見はないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議第32号は、これを可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手総員であります。よって、議第32号は、可決すべきものと決しま
した。

次に、議第35号「焼津市税条例の一部を改正する条例の制定について」を議題といた
します。

議案書は追加議案の議案書1ページ、参考資料は同じ資料の3ページからです。

それでは、議第35号に対する質疑に入ります。

質疑、意見のある委員は御発言をお願いいたします。

○鈴木浩己委員 今回の雑損控除の特例ということで、本来でしたら、令和7年度分の個
人住民税で雑損控除されるものを前倒しということなんですけれども、たしか規約の中

に「所得割の納税義務者の選択により」という文言がありますけれども、じゃ、別に令和7年度でいいという方は令和7年度分の雑損控除になるのか、その辺だけ1点お願いします。

○平田泰之課税課長 お答えいたします。

ただいま鈴木委員からお話がありましたように、こちらについては、本来であれば令和7年度に行うべきもので、それを前倒ししてやるものですから選択制を取らせていただいていますので、本来の令和7年度でやるべきと思った場合にはそちらのほうでやっていただいて、前倒しをしなければということであれば前倒ししてやることのできるというふうになっております。

以上でございます。

○鈴木浩己委員 ありがとうございます。

対象者が申し出ないと前倒しにはならないという、そういう捉え方でいいですかね。実際、どこへこのどちらかを選択するというのを申請したりお伝えする窓口というか、それも教えていただきたいと思います。

○平田泰之課税課長 選択制の窓口は、普通の税務署に選択制というものになります。

○小林数佳課税課市民税担当主幹 今課長から申し上げたように、所得税のほうの申告についてはそうなんですけど、住民税につきましては、住民税の申告書においてそちらを選択するというので意思表示をしてもらえれば、選択も可能ということになっております。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。いいですかね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議第35号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手総員であります。よって、議第35号は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、行政経営部所管の議案の審査を終わります。

お疲れさまでした。

まだ今、全員こっちに到着していませんので、暫時休憩いたします。

休憩(9:23~9:39)

○村松幸昌委員長 それでは、おそろいですので、休憩前に引き続き総務文教常任委員会を開催いたします。

次に、防災部所管の議案の審査を行います。

議第36号「焼津市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について」

を議題といたします。

議案書は追加議案の議案書2ページから、参考資料は同じ資料5ページからです。

それでは、議第36号に対する質疑に入ります。

質疑、意見のある委員は御発言をお願いいたします。

○杉田源太郎副委員長 改正に至った経過なんだけど、今までの中で、これを補償した例というか、そういうのは何件ぐらいあるのか。

○石川雅章地域防災課長 答えいたします。

こちらのほう、補償関係なんですけど、現在2名という形で、遺族補償と療養補償、1件ずつという形でございます。

以上です。

○杉田源太郎副委員長 亡くなった……。

○石川雅章地域防災課長 そうです。遺族はそういう形、遺族補償。

○杉田源太郎副委員長 遺族補償、消防団員は亡くなった。

○石川雅章地域防災課長 そういうことです。かなり昔の話ですけど。

○原崎洋一委員 ちょっと筋違いの質疑かもしれませんが、この参考資料の6ページの表を見ると、ほとんどの項目が金額が上がっているのに対して、団長及び副団長の部分の20年以上というところだけは変わっていないのは、どういう理由でしょうか。

○石川雅章地域防災課長 こちらの単価の見直しにつきましては、総務省のほうで単価のほうを見直しのほう、行っております。多分この20年以上の団長、副団長というのは補償基礎額のアップというか、上限のところになりますので、こちらについては、今回は修正、見直しというのがなかったという形で伺っております。

○原崎洋一委員 分かりました。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。いいですか。いいですかね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議第36号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手総員であります。よって、議第36号は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、防災部所管の議案の審査は終わりました。

当局の皆さん、御苦労さまでした。

休憩(9:42~9:56)

○村松幸昌委員長 それでは、休憩前に引き続きまして総務文教常任委員会を開催いたします。

次に、市立総合病院所管の議案の審査を行います。

議第11号「令和6年度焼津市病院事業会計予算案について」を議題といたします。

予算書は別冊の焼津市病院事業会計予算書です。

それでは、議第11号に対する質疑に入ります。

質疑される委員の皆さんにはページ数を示していただき、当局に分かりやすいような形で御質疑を願います。

それでは、質疑、意見のある委員の御発言をお願いいたします。

- 村田正春委員 予算書の33ページです。中段ですかね。看護学生修学資金返還免許費、以下、医学生、薬学生と続いています。これはどんな条件のときに返還されるのか、また、それぞれ何人ぐらいいらっしまったのか、教えていただけますか。
- 寺尾貴裕病院総務課長 返還免除費につきましては、流れで言いますと、まず、学生のときにその学生に貸付けを行います。その学生が当院に就職されて、経験年数によって、要は貸し付けた金額を1年ごと免除していくというものでございます。
- 村田正春委員 1年ごと。
- 寺尾貴裕病院総務課長 1年ごとで、要は年数、要は貸付け年数に応じて、要は就職した実績年数によって免除していくというものでございます。

令和6年度につきましては、看護学生につきましては39人分です。医学生については5人分を計上しています。薬学生につきましては2人分を計上しております。

以上です。

- 村松幸昌委員長 ほかにありますか。
- 鈴木まゆみ委員 17ページの引当金の取崩しの一番下段の「令和6年度において、債権の不納欠損に549万9,000円が見込まれるため」というところと、次、21ページの令和5年度のまた同じ貸倒引当金取崩しの「令和5年度においては、債権の不納欠損に756万6,000円が見込まれるため」というところなんですけど、かなり大きな金額だと思いますが、貸倒引当金を取り崩すこの金額の目安といいますか、債権不能の基準、不能になるだろうという基準というのがあるんでしょうか。
- 見崎孝之医事課長 それこそ、不納欠損のところにつきましてですけれども、その基準というんですか、どうして不納欠損にしておるかというところをちょっとお答えさせていただきます。

それこそ、その債権者の方が亡くなったりだとか、あと行方不明、それと自己破産など、そういう理由からちょっと回収が困難だということにつきましては、この不納欠損のところ計上させていただいております。あと、時効なんかのものについても、不納欠損して上げさせていただいているというものでございます。

以上でございます。

- 鈴木まゆみ委員 引き続きちょっと関連してなんですけど、その貸倒引当金を取り崩すということは、貸倒引当金として基金といいますか、そういったものの項目があるということなんですか。すみません、基本的なことなんですけど、見つけられなくてすみません。
- 森下政安喜病院経営戦略課長 それでは、お答えいたします。

貸倒引当金取崩しの費用のほうですけれども、30、31ページを見ていただきまして、

目を見ますと経費で節のところを見ていただきますと、下から6項目めの貸倒引当金繰入額412万6,000円というところで、費用として見ておるという状況でございます。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

○杉田源太郎副委員長 1ページの1款第3項のところ特別損失があつて、33ページのところに、特別損失のこの金額が書いているんですけど、この内容について教えてください。

○森下政安喜病院経営戦略課長 特別損失額5億1,075万1,000円ということで、そちらの内訳ですが、2点ございまして、旧職員宿舎解体工事、こちらのほうの工事と、あと、旧職員宿舎の解体によります除却費を計上して、合計で5億1,000万円となっております。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

○鈴木浩己委員 関連してなんですけれども、今の特別損失の旧職員宿舎解体工事費と除却費で5億1,075万1,000円という、そういうことなんですけれども、素朴な質疑しますと、17ページに固定資産の減価償却の方法ということで書かれていて、有形固定資産の建物のところなんですけれども、定額法で算出をします。それで、その下のほうに、建物の耐用年数が10年から47年というふうに書かれております。今回解体をする旧職員宿舎についてと、あと、あれですか、道原の医師住宅のほうの2か所で5億1,000万円ということですかね。

その減価償却の帳簿価格がまだあるのかどうなのか、この2つの建物について、その減価償却期間は何年設定をしていて、その残があつたのかどうなのかというのをちょっと教えていただきたいと思います。

○村松幸昌委員長 ここの積算根拠が分かれば、答えは出ていると思うんですけど、どうなんですか。

○寺尾貴裕病院総務課長 鈴木委員の御質疑なんですけれども、建築年とすれば、昭和49年から昭和57年ぐらい、いろんな年数によって建物が建っています。医師住宅だと昭和57年12月とかで建っています。

その後、いろんな建物に対して手を加えていまして、一番古い建物であれば、基本的に建物って耐用年数40年ぐらいで設定をして、定額法で減価償却していきますので、その部分については、残存価格として0.5%ぐらい残してという形で残っています。

その後増築だとかしていくと、またそこから新しいものについては減価償却をしていきますので、その一部、要は増築した部分について、新しいものについては残っていると、要はまだ償却し切れていないものもあります。

ただ、今回、全部建物を壊しますので、その残りの残存価格プラス減価償却をしていない部分というのは費用計上しなきゃなりませんので、それを除却費として計上をさせていただきますという形になります。

以上です。

(「5%」と呼ぶ者あり)

○寺尾貴裕病院総務課長 すみません、5%でした。

○村松幸昌委員長 残存価格が5%。

○寺尾貴裕病院総務課長 残存価格は5%です。

○鈴木浩己委員 分かりました。それじゃ、この祢宜島A棟、B棟、それから道原宿舎のほうの解体工事費、それから除却費の金額、それぞれを教えてください。

○森下政安喜病院経営戦略課長 まず、職員宿舎の解体工事費が3億円、職員宿舎の解体による除却費が2億1,075万1,000円。

以上です。

○鈴木浩己委員 それはあれですか、病院の北側の、いわゆる祢宜島A棟、B棟と、あと医師住宅のあっちの込みですか。

○森下政安喜病院経営戦略課長 今回、今年度工事をする、先ほど言った北側の医師宿舎A棟、B棟と、あと、南側の道原の医師住宅なんですけど、工事の都合で3棟残す予定があるものですから、そちらだけは残しまして、それ以外のものを今回の除却の中に入れております。

○鈴木浩己委員 分かりました。3棟残るとするのは、道原宿舎の今回は6棟分ということですよ。分かりました。

さっきの固定資産の残存価格の部分に戻りますけれども、要するに固定資産除却損という、そういうたしか費目というか、名目になると思うんですけども、それで特別損失の中に入ってくるんですけどもね。

その除却損が金額的に幾らだったかというのもお教えいただければと思います。

○森下政安喜病院経営戦略課長 先ほど申しあげました2億1,075万1,000円、こちらが除却損になります。

○鈴木浩己委員 いいですか。

別の質疑で、昨年もお伺いさせていただいたんですけども、未収金の現状を入院と外来に分けてお教えいただきたいと思いますが、昨年は、医業の未収金が、全体で約18億円、過年度の分として4,400万円、あと入院と外来で、入院が11億4,000万円、外来が6億4,000万円、その他未収金が2,000万円という、そういう御答弁をいただきましたが、現状どんな状況かお教えいただきたいと思います。

○見崎孝之医事課長 それでは、1月末現在の未収金のお答えさせていただきますけれども、1月末現在で、未収金が20億4,000万円ぐらいあります、約。医業収益としまして19億7,000万円、そのうち入院が12億8,000万円、外来が6億9,000万円、その他としまして2,300万円があります。あと、過年度未収金として約4,200万円というような状況になっております。

○鈴木浩己委員 分かりました。昨年度よりも、若干増えているような現状です。ただ、過年度分の未収金については、昨年度よりかも若干圧縮できたかなというふうに思われます。

昨年も伺いましたけれども、その未収金の回収について、昨年は2人の嘱託員さんがやっていたらと。戸別訪問していただいたりだとか、あるいは電話での督促、なかなかやっぱり厳しい場合は弁護士さんへの依頼というような形でお答えをいただきましたけれども、昨年度と全く同じような今体制でやっているのかどうなのか、それもお教えいただきたいと思います。

○見崎孝之医事課長 ただいまの御質疑ですけれども、昨年と同じ状況でございます。回収員が2人、それと、そこで対応できない場合には、弁護士事務所に債権をお願いして

いるというところでございます。

以上でございます。

○鈴木浩己委員 分かりました。

それと、あと、別のお話になりますけれども、令和6年度から、要するに来月4月1日から、医師の働き方改革ということで大分制限が出てくると思います。特に、長時間労働でやっぱり先生方に我々市民としても体を委ねる部分があって、相当やっぱり医師の皆さんの長時間労働に支えられて毎日生活させていただいているなあって思っているんですけども、今回の働き方改革で、やっぱりそういった長時間労働の時間外労働が制限されることになってきますと、当然、労務管理の方法ですとか、あるいは先生方同士の業務の整理であるだとか、あとは、医師の人数を増員するだとかという、そういうものをやらないと、なかなか制限がかかる時間内で年間の労働時間というのをクリアできないのかなというふうに思うんですけども、新年度に向けて、こういった労務管理だとか、業務の整理だとか、あるいは医師の増員だとかという、そういうものをもう既に組んでいらっしゃるかなというふうに思いますが、その点、お願いいたします。

○寺尾貴裕病院総務課長 鈴木委員の御指摘ですけれども、医師の働き方改革ということで、もう来月、4月から適用になりますので、まずは、医師の労働時間の把握をするために、本年2月に勤怠管理システムというものを、システムを導入させていただいて、その内容としましては、職員の出退勤の時刻、あるいは時間外の申請であるとか休暇の申請、それを全てシステムで行うということで、2月より導入をしています。そのことによって、先生方の労働時間をタイムリーに把握できるという中で、まずは、そこで先生方の時間外を、労働時間を把握したいというふうに考えています。

今、その働き方改革の中で、年間960時間ということもありますけれども、なかなか今、当院の現状として、全ての先生方がその年間960時間に入ることはちょっとなかなか厳しいものですから、今、A水準とかB水準ってあるんですけども、B水準という形で県のほうに申請をして許可を、多分3月末には許可をいただくということを予定していますけれども、まずは、労働時間を把握した上で、先生方御自身も自分の労働時間というものをちょっと意識していただきながら減らしていくというか、あと、診療科の中の業務分担だとか、そういうものについてもちょっと診療科長にお願いをして、分担をしていくということで考えています。

あと、先生方の業務、要は医師でなくてもできる業務の部分については、タスクシフトだとかというところで、医師から看護師、看護師から看護補助者とかというところで業務を割り振りができるように、そういう取組をこれからしていきます。

以上です。

○鈴木浩己委員 分かりました。ありがとうございます。

さっきのA水準とかB水準のお話ですけれども、あれですか、もう既に決まっているんじゃないかと、県に申請を出して、それが通るのが3月末という、そういう感じですか。

○寺尾貴裕病院総務課長 県の、要は許可を得る前に勤怠センターってあるんです、勤務環境改善センターというところに出して、その中に医師の労働時間短縮計画書というものを提出させていただいて、そこで審議を受けて、その、要は承認を得て、それを経て県のほうに提出をするというところで、まず、その、要はセンターのほうの承認は得

ましたので、そこから県のほうで、県のほうの審議会というか、そこにかけて医療認可を受けるところです。

以上です。

○鈴木浩己委員 分かりました。

ということになると、もしB水準で通ると1,860時間という、そういう時間帯になるわけですが、さっきのA水準だと960時間ですよね。ですので、それでもBで通っていただければ、それだけの時間帯の枠がありますけれども、ただ、先生方のやっぱり長時間労働からしてみれば、あんまり変わらないのかなというふうに思われますけれども、ただ、相当やっぱり先生方の業務量的に、相当やっぱり配分をしたりだとか、あるいは先生の人数を増やすだとか、そういうことをしていただかないと、なかなかこの4月1日からスタートする改革には厳しいのかなという思いでありますので、ぜひ先生の、それこそ健康でいていただかないと我々いつお世話になるか分かりませんので、ぜひよろしくお願いをしたいなというふうに思います。

取りあえず一区切りで、ありがとうございます。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

○増井好典委員 書類のほうの31ページで、支出の委託料が載っているんですが、もちろん、例えば検査業務、医事業務、麻酔業務、この辺は専門的な委託料なのでちょっと除外してでも、そのほかの、例えば警備業務であったりとか清掃業務の委託料、こういったものがちょっと市民の方から問合せもあった部分があって、こういった委託料の、要は契約がそれぞれあると思うんですね。その契約内容というのはオープンにしてもらうことでいいのかいなど。もちろんどこまでという線がそれぞれあると思うんですけれども、問合せをしたときに教えてもらうことはできるんですかといった問合せがちょっとあったことがあります、その辺はどうなんでしょう。

○岡谷敏明用度施設課長 お答えいたします。

契約の方法は幾つかございまして、プロポーザルですとか、指名競争入札とかございますけれども、その前提、前段でその仕様書を確定してまいります。

その仕様につきましては、オープンに一般競争入札で行うような場合には、病院のホームページですとか、そういったところに載せることによって公告という扱いになりますので、正式なものになります。

それまでは、案として決裁行為の中で動いているものですから、公式としてお答えすることはできないんですけれども、通常の共通の常識的な部分につきましては、規模ですとか、そういったことは随時お答えできる内容ですので、問い合わせいただければお答えさせていただきます。

○増井好典委員 常識の範囲内であって、私のところに聞かれたのは、例えば委託しているその分野の時間帯であるとか、あるいはそこで投入される人数であるとか、あるいは報酬の単価であるとか、そういった部分までしか、そういった部分を知りたいというのが多くのごことで、そこから先のもっと詳しい多くの部分は求めていないようなので、そういった方は直接また電話したりとか、そういったことがあるかもしれないので、また、できる範囲の中で対応していただければというふうに思います。よろしくお願いたします。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

私、いいですか、副委員長。

それじゃ、37ページをお願いします。資本的収入及び支出のところの支出になります。

新病院建設事業費のところの委託料8,300万円計上されています。それぞれ基本設計の修正業務、修正業務委託（その2）、医療コンサルタント業務委託、それぞれもう少し、もう一步踏み込んだ詳細説明をしていただければありがたいと思う。

○岡谷敏明新病院建設課長 では、お答えいたします。

委託料の37ページの一番上の基本設計の修正業務委託につきましては、これまで令和5年、令和6年の債務負担によりまして実施しているところであります。現在も、12月に委託しました決定業者との間で協議を行いまして、完成を令和6年度の9月を目途に進めているところでございます。

2段目につきましては、その2になりますけれども、こちらは令和3年度に基本設計を一旦取りまとめた以降、今日までの間にいろんな課題が生じています。例えば外構の設計の関係ですとか、あと省エネ法の改正によるZEBの関係、そういったところを新たに基本設計の中に盛り込んでいくと、そういった業務を（その2）として発注させていただく予算になっております。

一番最後の医療コンサルタントの業務につきましても、令和5年、令和6年の債務負担で行っているところですが、こちらも病院の保守的な運営のために施設の設計と併せまして運営の方法を検討していくと、そういった業務になっております。

以上です。

○村松幸昌委員長 それは了解しました。

その3つ下の補償費のところの新病院周辺道路整備に係る補償費、これについて御説明いただきたいです。

○岡谷敏明新病院建設課長 こちらにつきましては、病院の、新病院を造るに当たって、敷地を今、基本設計の中で検討しているわけですがけれども、現病院の西側に新病院ができるということで、今、設計を考えております。

それに伴って、現在の病院のところに配置しております市道が敷地にかかるものから、建物にかかるものから、それは周辺道路を付け替えるという市のほうの道路工事をお願いしておるところです。

それに伴う令和6年度分の補償費、これを計上しているものです。

○村松幸昌委員長 そうしますと、今、いわゆる市道の付け替えをするものですから、原因者負担がかかってくるという理解でよろしいですか。それで、いわゆる完成させた後に市のほうに移管をして、あとはもう病院じゃなくて市道で、市のほうで、道路課のほうで管理してもらおうという理解でいいですね。了解です。

ほかにありますか。

○杉田源太郎副委員長 先ほど村田委員の質疑の中で、看護学生、医学学生、薬学学生の人数というのをお聞きしたんですけど、志広組のほうで、看護学校のほうから市立病院のほうに入ってくる人数が一番多いんじゃないかなと思うんですけど、その方たちの勤続年数によって奨学金のあれも変わるかってお答えあったんですけど、今までの勤続年数というのは、平均でどのくらいなんですかね。平均でと言ってもあれだけど、ほとんどがずっと5年以上とか、そういうふうになっているのか。

いや、看護師さんが……。いや、先生の少なくなっている問題、少なくなっている時間の問題も含めてなんだけど、看護婦さんの問題もそれがすごく大きくなって聞いているもんで、その辺、看護婦さんをちゃんと両方、数的にも維持していくのが割と大切かなと思っていて。

○寺尾貴裕病院総務課長 今の看護学生の貸付金の年数ですけど、基本的には中部看護学校って3年なものですから、最長でも3年間貸付けをさせていただいて、その、要は看護師さんが、要は当院に就職されて3年を経過すると、そのような貸付けの部分が、要はないという形になりますので、その勤続年数というのは、あくまでも貸付け期間、年数に応じて、もし仮に、じゃ、1年間、要は受けていれば、1年間働けばそれが免除になりますよというものです。

○杉田源太郎副委員長 ちょっと質疑の趣旨はそこじゃないんですけど、看護学校から焼津市立病院に来ていただいた看護師さんが、その3年間を過ぎた後も……。

(「定着したかということでしょう」と呼ぶ者あり)

○杉田源太郎副委員長 要は、3年終わって奨学金のあれも全部終わっちゃったと。もう借金返さなくていいなとなったら、さようならという……。

○寺尾貴裕病院総務課長 今の杉田委員のお話ですと、そういう方は基本的にはいらっしゃいません。当然、焼津市立総合病院に勤めたいという、そういう意思を持って入ってきますので、3年経過したから、はい、それじゃ、どこか行きますよという方は、基本的にはいらっしゃいません。

○杉田源太郎副委員長 ずっと続けて。

○寺尾貴裕病院総務課長 そうです。

○鈴木浩己委員 市民からの御相談が結構、市立病院関係は多いんですけども、軽微なものからちょっと深刻だなって思うものまでいろいろあるわけですけども、自分は深刻だと思ったのは、例えば夜中に、独居老人の方が救急車で救急外来にかかったと。要するに腹痛でかかったわけなんですけど、医師に処置をしていただいて排便をし、治っちゃったと。もう全然、入院するとかなんとかというレベルではないので、それじゃ、よかったですねってお会計を済ませて帰るときに、要するに午前2時以降というのが、タクシーのそれこそ働き方改革で、焼津市内に深夜営業が2時以降しているところがないものですから、要するにタクシーがない。弱ってしまって、要するにその救急外来の処置室の入り口の廊下のところにソファがあるじゃないですか、あそこへ寝て夜明かしをして、朝、タクシーで帰ったという、そういうのがあって、何件か、複数の方からいただいたんですけども、そういう現状って、恐らく先生も部長も御存じかなというふうには思いますけれども、タクシー事業者が24時間営業していないという部分ではあるんですけども、それを何とか病院のほうで仮眠をするスペースというのですか、救急の外来のすぐ壁を隔てて南側辺りに、たしかちょっと部屋があるかなというふうに思われますけれども、そういうところのスペースをそういう方用に何とかならないものかなと思うんですが、病院のほうで何かそれに対する対策で取り組んでいるとか協議している部分がありましたら、お教えいただければと思います。

○寺田浩己事務部長 ただいま鈴木委員からの課題というか、それは病院のほうも認識しております。それにつきましては、タクシー事業者が24時間やっていないというのにつ

きましたは、市長のほうにもお話をさせていただいて、市の施策として何とかしてもらえないかというような話はしております。

実際、そういう患者さんがいた場合ということなのですが、救急室のほうで、一応経過を観察するベッドが幾つかあります。そこで休んでもらう患者さんはいらっしゃいます。ただ、本当にもう看護師が観察をしていたほうがいいなという患者さんはそこで休んでいただいて観察をしながら、朝までちょっと待っていていただくということをやっているんですが、それ以外の本当にもう帰っていただける患者さんについては、エントランスのところで休んでいていただいて、警備員がちょっと見ながら対応してもらおうとかというような形で、病院のほうも実際、困っているというのが現状です。

というのは、救急のほうの看護師も、そういう患者さんがそこにいると、仮眠を取るわけにはいかないものですから、そういう意味でもちょっと業務の負担になっているというような状況があります。

ですので、解決するには、タクシー事業者が、呼んで来ていただけるというような体制が取れば、それで何とかクリアできるのかなと思っていますけど、今現在、病院でできるようなことは病院として今やっていますので、一応そのような形でやっていますということだけちょっと御了承というか、御理解いただければと思いますので、よろしくお願いたします。

○鈴木浩己委員 承知しました。

それこそ、私も市長とその件でお話をさせていただいて、やっぱりタクシー事業者が今、営業停止をしている時間帯にまた車を回してもらおうというのも、なかなかやっぱりドライバーさんも少なくなっていたり、高齢化になったり、その時間帯というのはほとんどお客がいらっしゃらないんですね。

ですので、その時間は営業停止の時間帯にしているらしいんですけども、それをまた市の施策のほうで何とかその時間にタクシーを回すということになると、そういうやっぱり患者さんというのは、もう年間数えるぐらいしかないのかなというふうに思うんですね。

ですので、車を回していただくという、そういう政策よりかも、やっぱり仮眠みたいなスペースがどこかにあれば、それはそれで完結できるかなというふうに、素人考えですけれども思ったりもして。

ですので、また、よりよい対策を病院のほうでもまたぜひ御検討いただく中で、そういう問題に対しては解決できればなというふうに思いますので、引き続きよろしくお願いたします。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

○増井好典委員 先ほど鈴木委員の話なんですけど、同じような話が私のところもやっぱりありまして、その方は妊産婦の方で、シングルの方で、子どもも小さい子もいて、お友達もない、周りに近所も何もいないということで困っていらっしゃったというのが、全く同じケースであります。それはそういった話がありましたということで。

書類のほう18ページに、予定の損益計算書があります。これは多分、確定の部分というのは、平成6年の1月までの数字が確定で、あと3月31日までの部分、2か月の部分は予測の部分が入っているのかなというふうに思いますけれども、この辺の数字と22ペ

一ジの事業会計の予算内訳書の中で、入院収益の部分の数字の比較なんですけれども、かなり数字的にも率としても大幅にアップした計画をされていると。外来の収益のほうは大体101%ぐらいかなと思うんですけれども、入院後は106%近いものを一応予定している。この予定をしている高い106%、僕にしたらちょっと高いんじゃないかなと思うんですけれども、この辺の根拠を大ざっぱに、分かる範囲で教えていただければと思いますけれども。

○森下政安喜病院経営戦略課長 今の質疑にお答えします。

まず、入院収益ですけれども、こちらにつきましては、今年度、まず、目標と……。稼働率が、基本的には患者数掛ける単価というようなものが収益になりますので、そういう考え方で、目標として今年度82.5%というのを目標にしております。

来年度につきましては、約85%を目標としております。これにつきましては、今回新型コロナウイルス感染症でかなり、令和2年、令和3年、令和4年と下がる稼働率、患者数も減っております。そういった中で、新型コロナウイルス感染症が5類に移行して患者数の回復というようなことを見込む部分と、当然、今、紹介・逆紹介を中心とした集客という形で、新規患者数の獲得というものも目指しております。

そういった形の中で、まずは、新型コロナウイルス感染症感染拡大前の令和元年度が82.4%ぐらいでしたので、まず、82.5%に戻すと。その前の平成30年、そちらがまず85%ぐらいでしたので、そちらのほうへ戻していくということで、病院の目標として今設定をさせていただいております。

そういった中で、今年度、令和5年度につきましては、やはり4月、5月はまだ新型コロナウイルス感染症の影響もありまして減っていて、あと、こちら当院だけでないんですが、今期、収益も含めまして、全国的に含めまして、なかなか入院患者が戻ってこないというのも現実的にはありますけれども、それから75%、76%だったんですが、現在、11月、12月、そしてこの1月、2月で、今は、先月が83%ほどで戻ってきまして、今月に入って、昨日の段階でも83点幾つという数字となってきております。

これはもう当然、ずっとそれが続くかどうかというのはもちろん分かりませんが、当然、病院としては経営改善等も含めまして、そちらを目標にまず設定ということで、今回85%ということでまず患者数を設定させていただきました。

あと、入院単価につきましても、今回6万8,000円ということで設定をさせていただいて、こちら診療の内容とか患者さんの内容等にももちろんよるものですから、なかなか難しいところもございますけれども、そちらも1つの目標として設定をさせていただいて、その結果として、入院収益が89億円というような形で、そちらを目標にこれからの病院を運営していきたいというふうな形で、こちらを設定させていただきました。

よろしいでしょうか。

○増井好典委員 多分新型コロナウイルス感染症の影響だろうなというふうには思っていたんですけれども、この入院収益の中に、薬価、薬がやっぱり高騰している、上がったまんまで止まっちゃっていると、下がる傾向もないということでいらっしゃるようです。この辺の薬と収益というのもやっぱり入っていらっしゃる……。

○森下政安喜病院経営戦略課長 まず、今の薬価、薬の値段が上がっているという部分と、あと高額薬品、がんとか、それから化学療法等の部分の高額薬剤とかが上がってしまし

て、そちらの部分については、影響というよりも材料費、薬品費のほうに、費用のほうにかなり負担が来ている部分はございます。

当然それを、高額薬剤の治療は外来の化学療法等が多いんですが、そちらのものについては、基本的には収益のほうに入れるということ、入院ももちろんですが、外来収益のほうには外来収益のほうに計上されているというか、収益となっているということでございます。

○増井好典委員 了解です。

○杉田源太郎副委員長 今のお答えの中で、26ページ、27ページのところの薬品費のところ、この20億円、注射薬品の20億円、一番大きな占めていると思うんですけど、この医薬品、ほかのも含めてですけど、ここというのは個々に値段が違うもので一概にちょっと言えないかもしれないですけど、この使用期限というのは当然あると思うんですけど、そういうものがちゃんと、もし余分にあって、棚卸しを必ずやると思うのでそのときにチェックをされていると思うんですけど、33ページのところに、棚卸しのほうは、資産の消耗品とあるんですけど、この金額はここに比べるとかなり少ないもので、ほぼ予定どおりというか、今年度このくらいだろうなというその目安のとおり使われているんだろうなと思うんですけど、この辺は前年度に比べて、この医療費という中の推移だとか棚卸しのほうの補償のほうの推移というのはちょっとどうなっているでしょうか。

○林 豊薬剤部長 医薬品の期限切れの確認は、薬剤師の仕事の1つであって、品目数が非常に、2,000品目ほど多い中で、一つ一つ確認をしながら対応しております。

常温のお薬ですと、医薬品卸会社に返却できるものは返却したりとか、冷品、冷所管理については、基本的には返却できない形になっていて、高額な医薬品も冷所管理がかなり多くなっているんですけども、それはその都度、確実に医師のオーダーが入ったときに発注する等の確認で、なるべく使用期限切れの破損の金額を減らしております。前年度は、100万円台ぐらいの期限切れで計上していたと思います。今月はまだ100万円を超えていなかったと思いますけれども、薬剤費の担当の期限切れはそれぐらいだったと思います。

○杉田源太郎副委員長 それとは直接関係するのかわからないんですけど、例えば注射器の、注射をすることがすごく多いと思うんですけど、注射針というのは1回使うともう廃却か廃棄ですよ。そういうものの量というのはかなりあるんじゃないかな、注射針そのものもかなり高額じゃないかなと思うんですけど、この辺の処理の仕方とか、そういうものというのはどんなふうに行われているんですか。

○村松幸昌委員長 これは予算科目の中の31ページの廃棄物処理委託料になるんですか。

○岡谷敏明用度施設課長 お答えとしましては、31ページ、委託料の下から3行目の廃棄物処理委託料の中で、そういった医療廃棄物の処理は処理しております。

注射針の本数等、正確な数字はわからないんですけども、ガーゼとかそういった医療で出る廃棄物、医療廃棄物、それはまとめて資格のある業者を選定しまして、処理しているということでございます。

以上です。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

- 村田正春委員 すみません。全然よく分からないんですけど、教えてください。
- 27ページの薬品費の一番下にアイソトープ薬品、これはどんな病気に使う薬なんでしょう。すみませんが、よろしくをお願いします。
- 内藤 章診療技術部長 R Iといいまして、放射線治療に使うアイソトープ、薬品でございます。
- (「診断に使う」と呼ぶ者あり)
- 内藤 章診療技術部長 診断にも。
- (「診断と治療」と呼ぶ者あり)
- 内藤 章診療技術部長 治療、両方に。
- (「主にどんな病気」と呼ぶ者あり)
- 内藤 章診療技術部長 甲状腺とか乳腺とかという、ほとんどのがんです、がん。
- 村松幸昌委員長 ほかにありますか。
- (「なし」と呼ぶ者あり)
- 村松幸昌委員長 ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。
- 討論はありませんか。
- (「なし」と呼ぶ者あり)
- 村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。
- これより採決いたします。
- 議第11号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。
- (賛成者挙手)
- 村松幸昌委員長 挙手総員であります。よって、議第11号は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。
- 以上で、市立総合病院所管の議案の審査は終わりました。
- 当局の皆さん、御苦労さまでした。
- 以上で、総務文教常任委員会に付託されました議案の審査は全て終了いたしました。
- 以上をもちまして、総務文教常任委員会を閉会といたします。皆様、お疲れさまでした。

閉会(10:58)